

# 学園だより

## 心理相談室のご紹介

吉備国際大学社会福祉学部臨床心理学科 大野裕史



吉備国際大学心理相談室は、地域社会へのサービスと臨床心理の教育・研究を目的に、2001年10月にオープンしました。以後、高梁市をはじめ、県内外の人にご利用いただいております。

心理相談室では、心理的問題や発達に関する相談に対して、心理療法やカウンセリング、コンサルテーションなどの援助を行っています。

### 【例えば】

- 学校に関する相談・・・不登校・いじめ・友人関係・学業不振など
- 発達に関する相談・・・ことばの遅れ・知的な遅れ・自閉症・学習障害など
- 対人関係に関する相談・・・集団不適応・対人緊張・家族関係・ひきこもりなど
- 性格や行動に関する相談・・・不安・不眠・チック・摂食障害など
- その他・・・子育ての悩み・家庭内暴力・進路・適性・老年期の問題などについて、年齢を問わず乳幼児からご老人までの相談に、有料で応じています。

相談の受け付けは、月曜から金曜までの9時半から16時半まで、専用電話(0866-22-3068)にて行っています。詳しくは、吉備国際大学のホームページ(<http://www1.kiui.ac.jp/shisetu/index.html>)から「心理相談室」をクリックしてご覧ください。

# がんばるっ子



3～6年生の皆さん

## やったよ！ 『こどもホタレンジャー』

福地小学校 環境大臣表彰優秀賞を受賞  
ホタルを守る子どもたちの活動報告を募集し、全国の代表的な活動やユニークな活動を環境大臣が表彰する「こどもホタレンジャー」の優秀賞に福地小学校が選ばれました。「こどもホタレンジャー」とは、子どもたちのホタルを守る活動に対して、名づけられたものです。

タルや水生生物の観察、福地川の水质検査などを継続的に行っている3・4年生が活動をまとめ、夏に「ホタルの里づくりシンポジウム」で発表した5・6年生の活動事例や感想をつけ加えた活動報告が認められたものです。「水槽の水をかえるのが大変だったよ」(住田将生君・小3)。ホタルを増やすため、餌のカワニナを水槽で飼い、ふ化させて育てて川へかえます。「川のけんこうしんだんやごみ拾いなどで川のことがよく分かったよ」(野口靖葉さん・小4)と子どもたちは、ホタルを通じて自分たちの川の状態に関心を持つようになりました。学習したことは、ホームページにも掲載し、情報発信も欠かしません。三ツ宗宏教諭(43)は「ホタルを通じて川を大切にすることが、地域への愛情へと広がり、ひいては、自分自身を大事にする気持ちが育っているのでは」と話しています。「こどもホタレンジャー」への応募は、全国で121件あり、環境大臣賞1点、優秀賞5点が決まりました。福地小学校はその内の優秀賞を受賞。表彰式が3月30日に東京であり、3・4年生6人全員が出席し、活動発表することになっています。



川の生物を調べる児童

# わたしの健康づくり



## 「ビリヤードでつながる仲間の和」 川上町ビリヤード部 代表 田口 隆志さん(80)

毎週金曜日午前9時から午後4時まで、「いきいき交流館(川上町地頭)」で、ビリヤードをされているみなさん。部員は各地域の老人会に所属しており、現在18人。最年長者は鈴村定市さん(96)。オートバイで会場まで来られています。「勝ち負けよりも、みんなと話ができるのが楽しい」と笑顔で話されます。

ゲームは個人戦のトーナメント。勝てば1点。さらに勝てばまた1点。得点を積み上げて年間の総得点で順位を決め、上位3人にはトロフィーが贈呈されます。ゲームになると、「ここをねらったらええぞ」「おっ、うまい！」「今のは惜しかったなあ」とお互い誉めたり助け合ったりしています。寝言で「よし！はいった！」と言ってしまうくらい夢中になっている人もおられるそうです。田口さんは、「毎週ここへ集まってみんなの元気な顔を見て、話しをしながらビリヤードをすることが健康の秘訣。メンバーが高齢になってきているので、今後は後継者を育てていき、部の活動を続けていきたい」と話されます。ビリヤードの経験がなくても、メンバーが優しく教えてくれるので心配いりません。笑い笑顔があふれているビリヤード部。興味がある人は代表の田口さんまで。



ねらいを定める鈴村さん



## 次世代の農業経営のために 物部徹也さん(36歳) 備中町平川

県内の若い農業者が日ごろの農業活動や、農業に対する考え方を発表する「県青年農業者大会(県新農業経営者クラブ連絡協議会主催)で最優秀賞(岡山県知事賞)を受賞した物部徹也さん。物部さんは、高梁地方新農業経営者クラブ連絡協議会果樹部会を代表して、「ピオーネの超省力房づくり」について発表しました。「24歳からピオーネづくりにかかわり、早いもので13年目になります。当時は、とにかく時間を惜しまず作業することに夢中でした。ピオーネ農家でも高齢化が進み、一番手間がかかる「房づくり」をもっと効率的にできないものか。栽培面積の維持・拡大が求められているのに、このままでは若い担い手が育たない」と房づくりの省力



化の実証実験を行いました。開花期に行われる花穂の整形で、通常は花穂の先3割ほどを残すのですが、この実証実験では、枝に近い部分を残すことで、はさみの切り込み回数を15回前後から3回以下に減らすことができるそうです。この結果、従来の方法と比べ3分の1程度の作業時間で済むにもかかわらず、色や糖度、味に差はなく、作業時間当たりの収益は増えたと話されます。また、ベテラン生産者へのアンケート調査では、7割の人が「導入可能」と回答し、産地の維持・拡大に一役を担うことになりそうです。物部さんは「自分たちよりも若い世代の人が、農業に参入できるように、将来に引き継ぐ有効な手法や環境づくりに力を注いでいきたい。農業を通じて地域の活性化が図られるようにがんばります」と意欲を燃やしています。物部さんは、8月に愛知県名古屋で開催される全国大会に県代表として出場します。

# ハッキリキッテマス

### 編集後記

時が経つのはほんとうに早いですね。今年度も残りわずか。新市誕生から約半年が経過しました。自分的には、きらりと輝く高梁市を目指して、市民の皆さんの目線で公聴広報に奮闘しているつもりですが、何かにつけ空回りが多く焦ってしまつこともしばしば。アウトな性格で地に足が着いていない自分とは対照的に、市民

の皆さんの活躍には感動と誇りを覚えます。今月号「ハッキリキッテマス」でご紹介した備中町の物部さんなど、取材を通して市民の皆さんからパワーあふれるエネルギーを分けてもらっています。春はすぐそこ。花粉症に悩まされつつも、春のすがすがしい風を感じ、新たな気持ちで新年度を迎えようと思っています。4月から「広報たかはし」をよろしくお願いします。(ZK)